

令和7年度 第2回倉吉市社会教育委員協議会 会議録

- 1 日 時 令和8年3月18日(水) 午後3時~午後5時15分
- 2 場 所 市役所北庁舎 A会議室
- 3 出席者 委員：岩垣委員、小椋委員、笠見委員、岸田委員、眞田委員、樽井委員、寺谷委員、長岡委員、前田委員、柘田委員、山下委員(欠席：井上委員、鷲見委員)
事務局：中田教育長、石賀事務局長、井谷社会教育課長、田村図書館長、博物館：森主幹、社会教育課：山崎課長補佐・多久和係長
関係課：田村地域づくり支援課長
意見交換会助言者：鳥取県教育委員会事務局社会教育課 戸板係長
- 4 会長及び副会長選出
会長に岩垣委員、副会長に長岡委員が選出
- 5 協議事項
(1) 令和7年度倉吉市教育委員会の重点施策に基づく実績及び評価について
[主な意見等]
 - ・2ページの各地区コミュニティセンターに関する表現の中で指定管理団体制度に基づいて委託をしたとある。コミュニティセンター指定管理者としては、形式的な名ばかりの指定管理者制度に基づく受託事業をしていると指摘しておきたい。特にコミュニティセンター主事の賃金は10年以上改善されずに令和6年度にようやく一定のベースアップができた。しかし最近の物価高に抗するものではないし、勤続30年で年平均2,000円しかアップしていない。つまり指定管理者制度による指定管理料があまりにも低いということ。このことに関する不満は指定管理者全員が持っている。こうした実態を知ってもらい、指定管理者制度といっても中身に問題があるということを知っていただきたい。
- 6 報告事項
(1) 第4期倉吉市教育振興基本計画について
(2) 令和8年度倉吉市教育行政各基本施策重点事業について
[主な意見等]
 - ・教育理念についてお話があったが、細かい言葉の中にいろいろな思いが込められてることがわかった。
 - ・教育長が触れられたが、これからは「他人事ではなく我が事にする」ということが、すべての地域住民が考えていくこと、子どもたちには考えさせていくことが必要。
 - ・「ウェルビーイング」ということがいろいろな市の会で出てくるが、すべての課で通じるところがある。心身の健康をはじめ、暮らしぶりにおいても様々な状況の人がいるので、みんなが助け合えるような地域社会にしていかなければならない。今、教育、福祉は転換点にある。急激な社会変動の中で、助け合い支え合いながら生き抜く力をどうやって身につけていくかということ、みんなが我が事として考え暮らししていく体制をつくっていかなくとが倉吉に必要なことだと考える。
- (3) その他
 - ・社会教育委員の活動について(資料43ページ)事務局から報告。

- ・コロナ後における社会教育が抱える諸課題について話し合う場が必要というご意見を協議会からいただき、7月の臨時会では第4期計画策定に向けた意見交換、12月には社会教育委員以外の関係者にも参加いただき、子育てや家庭教育をテーマに意見交換をするなど話し合いの機会を設けた。諸課題の解決策を考える上で大事な取組なので来年度以降も引き続きこの取組を進めていきたい。同様に、第4期計画における対話型ミーティング事業の各地区への展開や、市長部局とも連携してこのような取組を進めていきたい。(事務局)
- ・先日、ふれあいホリデーを来年度1年間は検討期間とし令和8年度は実施しないという説明があった。この日が設定された経過や少子化が想像以上に進んでいることを考えると、サポートするための大人の意見が出てこないことが決定的に問題だと思っている。ふれあいホリデーを地域で盛り上げていこうということを、行政レベルで打ち出して、例えば市長が公言するなどしないと、名ばかりのふれあいホリデーになってしまう。令和9年度以降にぜひ復活させてほしい。
- ・子どもたちがいろんな体験できる機会、いろんな人と出会う機会をつくっていくべき。ふれあいホリデーに子どもたちの参加できるイベントを実施し、子どもたちにやりたいことを考えてもらおうとしたが体験したことがないのでプランが出てこないという実態があった。子どもたちにとって魅力あるところをつくるべき。
- ・プロジェクト単位で話し合う機会が設けられればと考える。大人が発言する機会をどうかたちで設けるか、または子どもたちが参加するような体験イベントをどう企画するか、これらは教育委員会だけでなく横断的に話し合わないと思えないと思う。
- ・コロナ禍に小中学校時代を過ごしている学生は様々な体験をしていない。体験不足でイメージもわからず、親になったときにつらいことになる。また、学生がボランティア等の体験をしようと思っても、交通手段がない、時間が合わない、お金もないという現実がある。これらの解決策を考えるにはいろんな知恵が必要。社会教育委員の会として具体的なことを考える会を設けられればと思う。
⇒狭い意味での社会教育だけではない、すべての教育、すべてを総合しなくてはいけないような話になってくるのではないか。具体的なことを一つずつ考えていってはどうかと思う。(会長)
⇒来年度の協議会で、話し合いのやり方、工夫の仕方、何をプロジェクトにするかということも含めて相談させていただきたい。(事務局)

7 意見交換

【テーマ：学校運営協議会と地域学校協働活動について】

…中田教育長、鳥取県教育委員会事務局社会教育課戸板係長のコミュニティ・スクールにおける学校運営協議会と地域学校協働活動に関する説明を聞き意見交換。

- ・社会教育委員の皆様には本日の説明によりこの制度の意義を理解いただき、所属団体における学校と地域との連携における関わりにおいて、または地域学校委員会の委員としての関わりにおいて、来年度から改革を進めていく中で、説明した仕組みが進んでいるかどうかを見ていただき、今後の協議会でご意見をいただきたい。(事務局)

[主な意見等]

- ・一昨年まで地域コーディネーターの連携もあまりできていなかったが昨年からは連携できるようになり、本日の教育長の説明を聞き令和8年度からの再スタートと一緒にさせていただけると感じた。
- ・地域学校協働活動をする上で、地域の方が協力したいことがたくさんあり、一方で学校側は何を受け取っていいのかわかり合えていない状況だった。それは熟議をする場がなかったから、誰がどういふふうにつくっていくのが見えなかったことが課題だった。このたびの仕切り直しが解決につながっていくと思う。

- ・ふるさとキャリア教育の図をただ見ても意味がわからないが、説明を聞くと理解が深まっていく。コミュニティ・スクールの説明を学校、PTA、地域の全体に説明をされ、熟議をすると自分の役割や立場が理解できて協力体制につながっていくのではないか。
- ・社会教育委員の会が声を上げて、熟議（家庭教育意見交換会等）をしたことが地域に少しずつでも広がって形になって現れてくることを楽しみにしている。社会教育委員一人一人が課題を自分事にして具体的に何をしていくかを一緒に考えていけるととてもよいと思う。
⇒このしくみの中で、どういう子ども達を育てたいかというビジョンや目標を学校と地域と一緒に考え共通理解をしていくということが大事なところ。共通理解ができるように取り組んでいきたい。（事務局）
- ・学校運営委員会の人全員が地域コーディネーターになるのか。
⇒各学校運営協議会に名称を変えた後もこれまでと同様、委員の中から1人か2人になっていただくよう考えている。（事務局）
- ・地域コーディネーターは、学校運営協議会の委員全員がやれば良い。この際、学校と地域の結びつきをもっと役割をもって果たしてくださいと言い切ったほうがよほど理解すると思う。
- ・変えていくことには異論は無いが、誰が説明をするのか。自分の地域では委員のメンバーについては教育長や教育委員会の考え方を聞いてから決めましょうということになっている。説明は校長がするのか、地域学校委員会の長がするのか、誰がするのか。
⇒令和8年度からの内容については、運営協議会委員はもちろん先生も含め、関わってくださる地域の方へは改めて教育委員会事務局が説明する機会を設けようと考えている。（事務局）
- ・説明会がないと活動できないということか。実質的には2か月ずれてしまうが良いか。
⇒4月に説明し、5月に委員の推薦をいただき、実施のスタートは6月以降にずれるがご了承ください。（事務局）
- ・今年のはじめの地域学校委員会で、令和8年度からの会のあり方の変更について校長から説明があったが、委員の印象としてはとまどいの方が大きかった。目に見えてわからないし委員の責任が重くなるという感想があった。理念は素晴らしいがどうやって具体的にしていくかイメージするのは難しいので、理念や方向性を理解している人、委員をナビゲートする人が、数年は学校運営協議会に必要。委員になる人にしっかり説明して納得と理解をしてもらわないと形だけで終わってしまうと思う。
- ・学校が抱えている課題を地域の中で共有し、誰がその問題に関われるのかということを経験の中で掘り起こし、振り分け、できる人ができるようにやる、そこにもいろんな人が入ってプランを立てていく。いろいろな団体をどうやってつなぐのかということが一番大事と思った。
- ・学校の先生方の意識が変わってこないといけない。今日の話現場の先生がどこまで知っているか。先生にも知ってもらい、委員と日常的に困りごとを話せる関係をつくっていかないと学校の中の改善や学校の有効活用ができないと思う。朝食支援や学校カフェもやってみたいと思っているが、まだ土壌として学校に入り込めるようなところはなかなかない。学校の中も変わっていただきたいと思う。

8 閉会(教育長あいさつ)

- ・学校運営協議会、コミュニティ・スクールについて意見をいただけた。学校運営協議会の転換点ということで、校長や関係者に説明をし、皆さんに理解と納得をいただきながら進めていきたい。スタートがずれたり変わりづらいのではないかとご心配もあった。熟議をするにもベクトル合わせをするにも、システムを変えたり、メンバーをどうしていくかにも時間がかかる。学び直しの3年間とし、理解を進めながらブラッシュアップし、3年後の姿をしっかりイメージしながら取り組んでいきたい。